

Japanese Association of Trombonists

JAT NEWS

第 64 号

日本トロンボーン協会会報 2005.2 発行

事務局：〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14 MBS音羽ビル5F プロアルテムジケ内 tel.03-3943-6677 fax.03-3943-6659
郵便振込：日本トロンボーン協会事務局 東京 9-175867

トロンボーンアカデミー＆フェスティバル

第7回 TROMBONE アカデミー＆フェスティバル
お待たせいたしました！今年もやります！アカデミー＆
フェスティバル！

フェスティバル

2005年3月20日・21日

★スペシャルコンサート（21日）
今年も素晴らしいゲストがコンサートに華を添えてくれます！なんと！フェスティバルのために結成されたトロンボーンカルテットの登場です。

その名を”ダカンコシスターズ。”

メンバーは山口尚人、古賀光、香川慎二、篠崎卓美の各氏です。この名前でピンと来た方は相当なトロンボーン通！？若手ホープのフレッシュ且つアグレッシブな演奏に請うご期待！！

そしてJAZZ界からも新しい風の到来です！ライブ活動を中心に、今では予約しないと入場出来ない程のお客さんが集まるジャズ4トロンボーン

”ハシャンプロジェクト”

今年、大注目のバンドです。

メンバーは Tb 橋本佳明、佐野聰、池田雅明、渡辺亮
Tub 家中勉 Gt 千葉伸彦 Dr 井上尚彦
と超強者揃いです。
一味違った「ハシャンサウンド」を是非、ご堪能下さい！！

★TROMBONE EXPO 2005

-トロンボーン屋台村-（21日）

展示ブースと試奏室が直結！楽器店お薦めの楽器＆備品が大集合！エキスポのような屋台村のような、不思議な空間。普段聞けない楽器のあんな事やこんな事。気になるけどなかなか吹き比べられない楽器を思う存分、試奏していただけます。

★講演会（21日）

マウスピースマイスター シリーズ最終章！

今年で三回目を迎えたこの講演会。今回登場しているのは「BLAS-MUSIK アトリエモモ」代表”河村百丈”氏です。奏者と楽器にとってマウスピースの占める重要度は計り知れません。その小さいけど重要なマウスピースのことをマイスター河村氏が語ってくれます。唄口を専門に極めておられる河村氏のこだわりとはいったい…？マウスピースマイスターの講演は今年で最後！？皆さんの悩みがマウスピースだけで解決してしまうかも…！？

★アンサンブルコンテスト

T - 1バトル（20日）

一昨年前からはじまりましたアンサンブルコンテスト。昨年、従来のコンテスト概念を一新し、

トーナメント方式を採用。大熱狂のうちに閉幕したT - 1バトルが今年もやってきます！

さあ！今年、頂点に立つのはあ～な～た～達です！！

★日本学生連盟コンサート（20日）

首都圏のトロンボーンを専門に勉強している学生が集まって活動している団体”日本トロンボーン学生連盟”。未来のトロンボーン界を背負って立つ若くてエネルギーな演奏をお楽しみ下さい。

★トロンボーン・コンペティション

入賞者による演奏（20日）

昨年11月に開催された「第11回トロンボーン・コンペティション」で優秀な成績を修めた上位入賞者の披露演奏

第1位 小篠和弥（東京都：足立高等学校）

第2位 中野耕太郎（神奈川県：横浜翠嵐高等学校）

第3位 伊東あづさ（茨城県：聖徳大学附属聖徳高等学校）

アカデミー

2005年3月20日・21日

★グループレッスン（20日）

初級・中級・上級・ジャズ

★個人レッスン（20日・21日）

プロ奏者によるグループレッスンと親切な個人レッスン（オプション）。昨年、大好評をいただいたオプションの個人レッスン！今年はより多くの方に受けていただけるよう日程を2日間に致しました。グループレッスンの合間ではなく、完全別枠にて落ち着いて個人レッスンが受講いただけます。

その他…！？

3月19日（土）に前夜祭を兼ねた懇親会の開催決定！！トロンボーンが好きな人、気になる人、イベント好きな人、誰でもご参加いただけます。この連休をフルに使ってトロンボーン漬けになってみるのも良いのでは！？

2005年3月19日（土）前夜祭

（参加費1000円おつまみ持ち寄り）

アカデミー受講者は無料

2005年3月20日（日）

アカデミー（グループ）

アンサンブルコンテスト「T-1バトル」

トロンボーン・コンペティション入賞者による披露演奏

日本トロンボーン学生連盟コンサート

2005年3月21日（月・祝）

スペシャルコンサート&講演会

アカデミー（個人）

第11回トロンボーンコンペティション

結果報告

2004年11月28日（日）に洗足学園音楽大学に於いて、日本トロンボーン協会主催による第11回日本トロンボーンコンペティションが開催されました。今年も全国各地から40名の方の参加を頂き嬉しく思います。

参加者都道府県の内訳は次の通りです。東京10、神奈川7、千葉6、群馬・静岡・島根 各2、富山・茨城・宮城・長野・愛媛・滋賀・北海道・埼玉・栃木・新潟・宮崎 各1の方々でした。

自由曲の選曲は、シューレック【7】、サンサンス【3】、エワイゼン、リムスキーコルサコフ、ギルマンが各4名と人気があるようです。

コンペティションも今回で11回目



後列左から（奨励賞）太田涼平 越智大輔

前列左から（3位）伊藤あづさ（1位）小篠和弥（2位）中野耕太郎

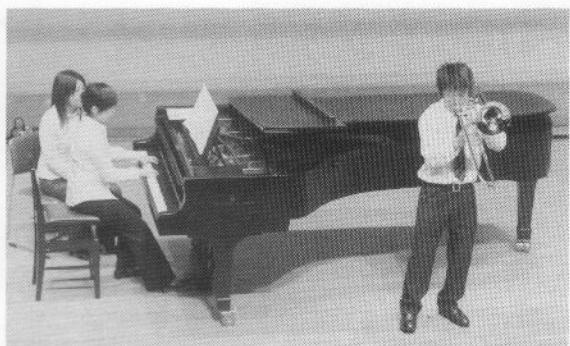
を数える事になりましたが、のべ400名を超える方が参加されたと思います。

1993年第1回の、現在アメリカで活躍されている神田めぐみさん、西岡基君、ミュンヘン音大大学院に在学中の肥後佳枝さんが参加したコンペティションは特に印象に残っています。その後も多くの方々の活躍を聞く度に、頼もしく思っています。

無理をしそうす、音色(書き)音程を大切にし、将来につながる基礎的な事を勉強していただきたいと心から願っています。

最後になりましたが、会場を提供して下さった洗足学園音楽大学、協賛各社、協力していただいた多くの方に深く感謝致します。

白石直之



写真上 第1位 小篠和弥 L.E. ラーション：協奏曲
(東京都：足立高等学校)

写真左 第2位 中野耕太郎 E. ボサ：パラード
(神奈川県：横浜翠嵐高等学校)

写真下 第3位 伊東あづさ S. シュレック：“ウォックス ガブリエル”からのトロンボーンとピアノの為のソナタ
(茨城県：聖徳大学附属聖徳高等学校)



素晴らしいゲスト演奏の村田厚生氏
L. ベリオ「セクエンツァ5」
J. サンドストレム「ラ・マンチャの歌」



表彰式にて第1位小篠和弥君に表彰状を渡す三輪純生会長

(PHOTO 村上準一郎)

ベルリンプラスデュオ コンサートを終えて

新音楽監督サイモン・ラトルとの組み合わせで4年ぶりの来日を果たしたベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のツアーワークの間隙をぬって、11月13日（土）武蔵野市民文化会館小ホールにて、ソロ・トランペット奏者のタマシュー・ヴァレンツィと、ソロ・トロンボーン奏者のオラフ・オットによる「ベルリン・プラス・デュオ」のコンサートが開かれた。

プログラムの前半は、わが国を代表する国際的オルガニスト松居直美の伴奏で、テレマン／トランペットとトロンボーンとオルガンのための協奏曲、ギルマン／トロンボーンとオルガンのための交響的断章、バッハ／前奏曲とフーガ（オルガン・ソロ）、ヘンデル／トランペットとオルガンのための組曲と、古典作品でまとめ、プログラムの後半は、NHK教育テレビのピアノ番組でお馴染みの実力派ピアニスト斎藤雅広の伴奏で、サン=サーンス／カヴァティーネ（トロンボーン・ソロ）、フンメル／トランペット協奏曲、シューレック／トロンボーンとピアノのためのソナタ「ガブリエルの声」、カステレーテ／トランペットとトロンボーンとピアノのためのコンチェルティーノと、現代曲まで広くカヴァーする盛りだくさんの内容だった。

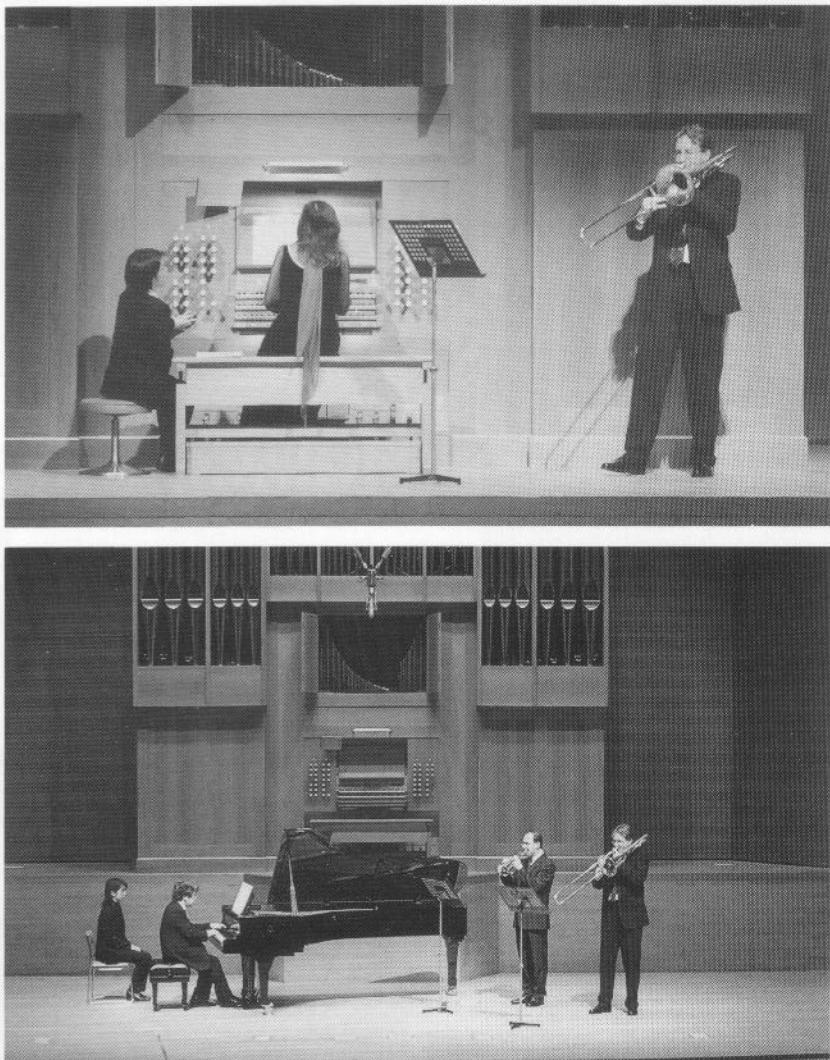
満場の客席では、多くの日本のプロ奏者を始め、この日のために北は北海道から南は九州まで全国津々浦々から駆けつけた聴衆が、じっと見守るように聴き入る様子が、独特な緊張感を醸していた。また、ベルリン・フィルのバストロンボーン奏者ステファン・シュルツほか、エキストラで日本ツアーに参加していたフランクフルト歌劇場のバストロンボーン奏者マンフレッド・ケラー、カラヤン・アカデミーのオットの学生ルツ・グレネヴィンケル、同ヴァレンツィの学生トビアス・ヴィンベックの姿も見られた。シュルツは、2日前に演奏会のことを聞き付け、「ソロで活動で

きるトランペット奏者、トロンボーン奏者は少ないので、ドイツでもこのような素晴らしいデュオが聴ける機会は滅多にない」と、予定を変更して聴きに来たという。

とはいっても「普段ドイツでは、教会でオルガンの伴奏でトランペットと一緒に吹くことが多い」というオットが、現地での演奏活動を日本に紹介したいとの思いで企画したのが、このベルリン・プラス・デュオである。松居直美が操るオルガンの音色は、あたかもフル・オーケストラの響きを思わせ、とりわけギルマンの交響的断章は、オリジナルのピアノ伴奏をはるかに上回る壯麗な作品になった。オットは、昨年7月のムジカーザでのリサイタルでも、ピアノ伴奏でこの作品を演奏したが、やはりどうしてもオルガン伴奏で聴かせたいとの思いが強かった。昨年は省略した曲間の1分近くにも及ぶ長大なカデンツァ（リンドベリ版）もたっぷり吹ききり、自らも95点をつける出来栄えだった。

同じホールのオルガンで何日も練習できる環境があれ

(PHOTO 村上準一郎)



ば、オルガン伴奏の作品をまだ
まだ多数披露したいところだつ
たが、ツアー日程とホールのス
ケジュールとの都合により、ブ
ログラムの半分はピアノの手を
借りることになった。しかし、
それはそれで返ってレパート
リーが広がり、一層充実したブ
ログラムとなった。ヴァレン
ツィは、12月のベルリン・フィ
ル定期公演にソリストとして登
場し、フンメルのトランペット
協奏曲を演奏するが、同じ演奏
がベルリンまで行かなくても東
京で聴けたうれしさ。「人の声で
歌う」楽器トロンボーンの特長
を十二分に発揮できるシュー

レックやサン=サーンスのトロンボーン・ソロをオリジナルで聴けたもうれしい。前半のオルガン伴奏によるデュエット作品がヴァレンツィの希望だったのに対し、後半のピアノ伴奏によるデュエット作品はオットの希望だった。このカステレーデ作品のオリジナルはオーケストラとバーカッショーンの伴奏であり、ピアノ伴奏では超絶技法を要する。またの機会があれば、是非オリジナルで聴いてみたい。

この2人に1プログラムでは少なすぎたようだ。今回、演奏予定で割愛になったホルストのトロンボーンとオルガンのための二重奏曲、ペトル・エベンの「2つの祈り」、



スタンリーのトランペット・ヴォランタリー、デュファイのトランペットとトロンボーンの協奏曲などなど、2人のレパートリーは尽きない。オットには、11月17日大阪ドルチエ楽器、11月19日新大久保ダクでの公開マスタークラスにおいて、ウェーバーのロマンスと、ブルジョアのトロンボーン協奏曲を披露してもらったが、他にも吹きたい曲があってたまらないといった様子。また次の機会に期待したい。

ベルリン・プラス・デュオ コンサート実行委員会代表
十文字学園女子大学助教授（社会学） 大友由紀子

小野隆洋と50本のトロンボーンセミナーを終えて



僕は今回はじめて小野先生のセミナーに参加させていただきました。プロの演奏家としての先生のレッスンは大変貴重な経験となりました。

先生はウォーミングアップの方法とその目的、効果をわかりやすくていねいに教えてください、その後の効果を実感することができました。今でも、練習前のウォーミングアップとして教えていただいたことをやるようになっています。

楽曲の方では、一見不可解な記号などを、実際に吹きながら解説していただきました。先生はフレーズを大変重視されていて、受講生である僕も、フレーズを意識して吹くようになりました。また、曲の雰囲気を変えるときの方法や、強弱など音楽的にもとてもよい勉強をさせていただきました。

コンサートの本番では、トロンボーンだけでこんなすごいものができるのかと感動してしまいました。これも、前もって曲をよく研究され、わかりやすく御指導くださった先生のおかげです。

僕は、今回、このセミナーに参加して本当によかったですと思っています。小野先生、そして今回のセミナーとコンサートを支えてくださったスタッフのみなさん本当にありがとうございました。

三隅町立三隅中学校 3年 坂水貴司

今回、初めて「小野隆洋と50本のトロンボーンセミナー」を聴講させていただきました。前の文章は、本校吹奏楽部の生徒4名が受講生として参加した後の感想の一部です。学校では決して体験することができない「50本のトロンボーンの演奏」は、生徒にとってすばらしい経験となったようです。セミナー後、生徒達は以前に比べ自信を持って演奏することができるようになりました。また、演奏方法でつまづきをもったときには、セミナーで教わったことを思い出したり、それをもとに自分たちなりに考えて問題点を解決していく姿が見られるようになってきました。

音楽科教師になって20年余りが経つものの、吹奏楽の指導の経験は浅く、多くの悩みを抱えていた私にとって

も、このセミナーは大変有意義なものとなりました。(生徒以上かもしれません。。。) 楽器の扱い方や日々の基本練習の方法から始まり、2日目の演奏会に向けてのアンサンブル等、多様な内容の指導方法を学ぶことができました。また、小野先生の、生の演奏を交えた親切丁寧な指導により、見る見る間に音色や響きが良くなっていく様子を目の当たりにすることができます。(ある生徒が「小野先生はマジシャンのよう」と言っていました。)

2日間のセミナーは、私にとっても、生徒にとってもすばらしい時間となるとともに、これからの「ガングル」エネルギーとなったように思います。

三隅町立三隅中学校教諭
吹奏楽部顧問 濱野こず枝



会報編集部より

この会報は日本トロンボーン協会の主旨に添い、内外のトロンボーン奏者、トロンボーン愛好家、音楽ファンを応援すべく発行されています。

会員の皆様の中で会報制作に参加してみたいと思われる方は村上まで御一報下さい。また、情報・質問等をお寄せ下さい。お待ちしております。

会報編集担当

E-Mail : info@jat-home.jp

HomePage : <http://www.jat-home.jp/>

編集担当からのお願い

トロンボーンに関する催し・コンサートなど
日本国内外かかわらずこのインフォメーション
コーナーに掲載いたしますので、どうぞ御遠慮なく
情報を寄せ下さい。

連絡・お問い合わせ

日本トロンボーン協会事務局

E-Mail : info@jat-home.jp

HomePage : <http://www.jat-home.jp/>

ビル・ワトラス日本公演ツアーを終えて

昨年11月にジャズ・トロンボーン界の巨匠、ビル・ワトラスが来日し、各地でその素晴らしい妙技を披露しました。私は、彼の14日間の滞在中、5回、ステージを共にする事が出来ました。ここでは簡単にその時の事を振り返ってみようと思います。私は普段の仕事は、基本的には主にクラシックをやっていますが、レパートリーが幅広い「吹奏楽」に深く関わっている事、かなり昔からジャズが非常に好きで、特に彼やクラシックの薰りもするジャズ奏者の演奏は好んで聞いて来ましたし、多くはないながらも演奏もしてきました。所で・・・「トランペットより高く飛び サックスよりも速く舞え」これは、今回ビルを招聘された事務所、ワールド・プロジェクト・ジャパンの黒坂洋介氏が作られた、ビルのキヤッチフレーズです。言いてて妙ですね・・・より詳しいツアーハンズは、ワールド・プロジェクト・ジャパンのサイトでご覧下さい！ <http://www.wpjapan.com/>

さて、彼は昨年11月2日に来日しました。トレードマーク？の大きく「Bach」のロゴが入ったお気に入りのデニムジャケットを羽織って颯爽と登場したそうです。65歳の彼には来日前から様々な噂が飛び交っていました。その一つが、今回のツアーを最後に引退し、ハワイで悠々自適の生活を送る、と言うものでした。結局それは全くの冗談だったらしく、これから約2週間、各地で名演を繰り広げるのでした。

実は今回私が、是非彼と長い時間過ごしてみたい！！一緒に演奏もしてみたい！！と強く思ったのは、この「引退説」が大きな原因でした。この機会を逃したら、もう一生ないだろう！と思ったので、11月という忙しい時期に頑張って時間を工面しました。

しかしガセネタという事で安心した+本当に長く過ごしてみて良かった・・・と思える瞬間が非常に沢山有ったのでした。まず11月2-3日は大阪でクリニックやライブを精力的にこなし、鮭やうなぎを堪能したそうです。彼は徹底したフィッシュ・ベジタリアンで、肉はめったに口にしません。お酒も全く呑みませんし、煙草なんぞは超ご法度です。アメリカでは毎朝走っているそうで、来日中も毎日ストレッチ体操を欠かさないそうです。徹底した節制と自己管理・・・だから65歳にしてなおも進化し続けるのだな・・・と非常に感銘を受けました。

全くと言って良いほど力がない演奏スタイル、恐ろしい程の集中力、非常に鮮やかなテクニック・・・彼のライブは今まで何回か聞いて来ましたが、今回は本当にベストのツアーだったのではないか？それにしても鮭が大好きで、注文も全部日本語でします。そして「うなぎ！」が大好物で、前回は12日間の滞在中、うなぎを20回！！も食べたそうですが、今回は恐らくそれを上回る回数を食べたと思われます。何でも口スの自宅でも、生きたうなぎを買って来て、自分で裁いて食べるそうです！たれもお手製だそうですが、日本のどこのうなぎ屋に聞いても、タレの作り方を教えてくれないと嘆いていました。だから自己流で、タレがあまり旨く出来ないんだ・・・と悲しそうにしていました。

今回お土産に、うなぎのタレだけを沢山買ひ込んで帰国したよ

うです。私はまず4日に宮崎で共演をしました。何故宮崎！？と思いつらうが、私の今の実家が宮崎で、また何と！ビルの実娘のメロディさんも日本人の方と結婚されて、宮崎の都井岬という絶景地に住まれているのでした。その噂を聞いていたので、何とか宮崎公演を実現させてあげたいと思っていましたが、今回本当に幸運な事に、献身的な主催者の方がいらっしゃって実現したのでした。しかもこの日はメロディさんの結婚記念日だったそうで、何とも素晴らしい日になりました。

会場の「SECRET GIG」というライブハウスは超満員で、始まる前から熱気ムンムンでした。「まさか宮崎でワトラスが聞けるとは！！」マニアックなファンから、普通の音楽愛好家の方まで。バラエティに富んだ客層でしたが、大いに楽しんで頂けました。# & ♪で活躍中のバストロンボーンの堂本雅樹氏も駆けつけてくれて、熱気は最高潮に達しましたが、リハーサルからビルとびつちり過ごした我々は、非常に良い経験をしました。

彼については色々な噂が有りましたが、至近距離でマイクを通さない「生の音」を聞いたのは初めてでした。

それは豊かで暖かい美しい音でした。確かに音は小さいのですが、大きい音も結構出す瞬間がありました。アンプッシュアはいわゆる「スーパーチョップス」に近い感じでしたが（下唇をかぶせ気味で、下あごをあまり張らない）、舌は自由に動かしているようです。どんなフレーズも長短調問わず、12のキーで吹けるとの事で、覚えている曲も数千曲と言う事でした。そして耳と感性を頼りに、基本的に全て暗譜で上から下まで、緩急自在に縦横無尽にアドリブして行きます。歌心も今が絶頂という感じで、とにかくそのセンスと歌う姿勢が素晴らしいです。PAには流石にうるさく、納得いくまで何度もやり直していました。しかし彼は単に純粋に自分の生音と同じ音をひたすらPAに求めている感じでした。

打ち上げではdoodleタンギングという特殊なタンギングの実例をして下さいました。実際に彼の動く舌をみて、少し長年のモヤモヤが溶けた気がしました。littleの発音を何回も繰り返した方が日本人には向いているかもしれません。打ち上げの席で皆自分の上顎やペロをみせながら発音しあう光景は、はたから見ると非常にアヤシイ光景だった事でしょう（笑）宮崎で彼は家族とも有意義な時間を過ごし、6日には私の教えている昭和音楽大学の学園祭にゲストで来て下さいました。彼は洒落っ気も有り、ネクタイをふと見ると、そこには沢山のバイアグラの文字が！！もう一本のネクタイには沢山のバイアグラの錠剤が・・・益々元気な65歳でした。最初リハーサルの時には無理もなく、結構お疲れモードでしたが、次第にエンジンがかかってきて、結構親父ギャグ的なMCをしていました。この日はPAを珍しく！？一発で気に入り（ほんとにめったにない事みたいです。）途中自衛隊機の爆音に擬似音をだして応戦するなど、楽しい一日でした。帰りの車の中では色々と貴重な話しが聞けました。紙面の都合で載せられないのが残念ですが、1956年に海軍軍楽隊で日本に来て、4年ほど？日本にいたそうです。その頃から日本食が大好きで、日本人の年

上の素敵なかわいらしいです。名前もフルネームでちゃんと覚えていました。勿論他にも色々な貴重な話を聞きました。

次は9日に、やはり私が教える国立音楽院でクリニックライブを行いました。クリニックは2時間目一杯、呼吸法、奏法、スライドの手入れ、アドリブへのアプローチの仕方などなど、非常に盛り沢山でした。

ビッグバンドは学生達も事前に充分に準備したせいか、非常に御高評を頂き、勇気付けられました。その後いわゆるジャムセッションで、大いに盛り上がりました。とにかくどこの会場でもCDがどんどん売れて、写真にサインに、非常にサービス精神旺盛で素晴らしいと思いました。以前の彼には余り見られなかった、暖かさ、優しさというものが今回のツアーでは随所に目立ちました。彼も数年前から大学でジャズトロンボーンやビッグバンドを教え、積極的に若い生徒と触れ合い、後進の指導にも精力的な様子でした。ちなみに今年は音楽博士の資格を取るらしいです。いわゆる「ドクター」です。凄いですね。

次は11日に調布で、私の所属するムジカ・ムンダーナ・トロンボーン・アンサンブルのゲストとして出演して頂きました。一部は大編成のトロンボーンアンサンブルで、クラシックのステージでしたが、彼はクラシックが好きで、トロンボーンが大好きなので、リハーサル中もずっと見ていた。恐縮なまでにお褒めの言葉を頂き恐縮でしたが、「自分も吹きたかった！！」と残念がっていました。そう多くはないらしいのですが、彼はクラシックの仕事をするらしく、バック42 BOLTWを持っていました。ちなみに普段は New York Bach LT16M (51年前の楽器だそうです)。銀メッキと金メッキのツートンがとても美しい楽器です。マウスピースは Bach11C です。後半は我々リズムセクションをバックに、どこまでも甘いいハインートと、超絶技巧、そして益々冴え渡る親父トーク！！ 素晴らしい一夜でした。

ちなみに我々のメンバーは殆どがクラシックの奏者なのですが、皆ワトラスの大ファンばかりで、この日が来るのを待ち望んでいました。そして最後に13日に神奈川県の湘南台を中心に活動する社会人ビッグバンド「藤沢スイング・ジャズ・ソサエティ(FSJS)」のライブの2部でビル+20本のTrbというお祭りの様な企画があり、大いに盛り上がりました。この日が最終日と言う事もあって、ビルは全ての面で飛ばしまくり、凄かったです。

打ち上げでは大ジャムセッションとなり、改めて彼の素晴らしい演奏を思い知りました。このツアーを通じて彼はとにかく練習！練習！練習！という事を強調していました。しかし彼を見ていると、本当に質の高い練習を無理なく沢山しているのだなあ～と思えます。兎に角楽器との一体感が凄く、楽器を吹くのがとても簡単そうでした。

スライディングはクラシックと少し違うとか、結構ゆっくり目に常にスムーズに流れているように見えましたが、ともかくその妙技は日頃のコツコツとした地道な努力の賜物なんだろうな・・・と思いました。今回私は長い時間一緒に過ごし、一緒に沢山演奏もし、実に色々な事を体験出来ましたし今後に是非とも生きたい！と思いました。彼の様なスタイルのプレイヤーを目の当たりにすると、音楽のジャンルは余り関係ないと思いました。

事実彼のライブやクリニックにはかなりの数の「クラシック奏者」が訪れます。そしてビルの感動的なスピーチが有ったので、

ここで紹介します。「この二週間、日本各地で公演してきました。すばらしい音楽、すばらしい食べ物、すばらしい人たちと出会いました。明日、私は口サンゼルスへ帰りますが、本当はもう二週間でもツアーを続けたい気持ちです・・・」 文字では中々伝わりにくいですが、生ではとても感動的なスピーチでした。日本のジャズシーンについてもコメントが有りました=日本にはすぐれた演奏家がたくさんいることを、今回のツアーを通じてビルは実感しているそうです。プロのレベルの高さはもとより、アマチュアが真剣に音楽と向き合う姿勢に感銘を受けたとか。また、ムジカ・ムンダーナや MU BIG BAND では、編曲の技量に感動。才能溢れるアーティストと出会い刺激を受けたと、何度も繰り返していました。ビル・ワトラスは南カリフォルニア大学でトロンボーンとジャズ・アンサンブルを指導する教授です。帰国したら、学生たちに日本のジャズシーンについて話して聞かせるとのことでした。

そして、日本にこれほどまでにトロンボーン吹きがいる事にも驚いていました。「ナショナル・インストゥルメントだ！」とも言っていました。そして引退などありえない！！という彼は、2007年に再び、今回以上の凄いツアーをすべく、日本公演を今から心待ちにしているそうです。次回も是非更に長い時間を過ごしたいものだと強く思いましたし、今回彼に触れ合った大勢の皆さんもそう思われている事でしょう。他にも昨年は、フランス国立放送フィルのメンバーによるレッスン会や、ニューヨークで売れっ子のジム・ビュー、ミリエール・トロンボーン四重奏団、など、ご報告したいプレイヤーやイベントが沢山有りましたが、次のチャンスに・・・と思いました。長々と有難うございました。(写真は、最終日の打ち上げでのジャムセッションです。左から元ゲイスターズの西島氏、私、ビル氏です。)(FSJSの深谷様よりご提供頂きました。)



郡 恭一郎

シェナウンドオーケストラ トロンボーン奏者・楽団理事 昭和音楽大学、東京ミュージック&メディアアーツ尚美、国立音楽院、各講師 日本トロンボーン協会常任理事
<http://homepage3.nifty.com/cori/>

コンサートインフォメーション

第13回東京音楽大学トロンボーンアンサンブル演奏会

2月7日（月）18:30 川口リリア音楽ホール（JR川口駅西口正面）

入場料：1000円

曲目：

トロンボーンのための組曲 / D. ドンディーヌ

トロンボーンのための組曲 / ゴフ＝リチャーズ

歌劇「カルメン」より / G. ビゼー

歌劇「アイーダ」より「グランドフィナーレ」/ G. ヴエルディ 他

-トロンボーンと共に40年-

松本 熙 60歳になりましたコンサート

日本のブラスクインテットの草分けである東京金管五重奏を主宰し、現在もメンバーとして活躍中の松本 熙氏の演奏会が来る2月10日、府中の森芸術劇場 ウィーンホールにて開催される。氏は、日本トロンボーン協会の発起人の一人でもあり長年常任理事も務めてこられた。また、ダリウス・ミヨーの「冬のコンチエルト」の日本初演などこれまでの日本におけるトロンボーンシーンにおいて欠かす事の出来ない人物のうちの一人である。

10年前にも大好評だった「50歳になりましたコンサート」をお茶の水、カザルスホールにて開催しており、今回10年ぶりに氏のソロが聴けるという事で楽しみである。今回は氏のソロの他に、東京金管五重奏団、令嬢で現在ヨーロッパで活躍中のピアニスト・松本 愛さんが、また、氏は様々なジャンルの数多くの優秀なプロを輩出しており、門下生有志が今回の演奏会に花を添える。

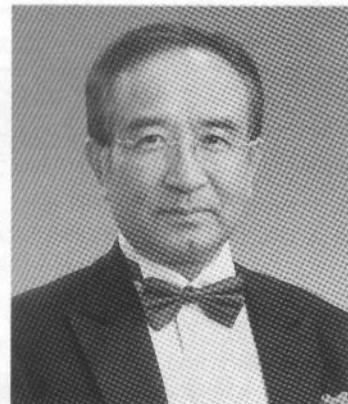
【日時】 2005年2月10日（木）19:00 開演

【場所】 府中の森芸術劇場 ウィーンホール

■一般 4000円 高校生以下 3000円（全席自由）

【主催・お問合せ】（株）青麦舎 リズム21 049-269-3115

【後援】日本トロンボーン協会



【プログラム】 ブラセビッチ：トロンボーン協奏曲第2番 リスト：巡礼の年 第二年「イタリア」ダンテを読んで ヒンデミット：トロンボーンとピアノの為のソナタ 増本伎共子：海浜の洞孔（初演） 西田幹：ピアソラスイート 劇団博之：デキシーランドジャズメドレー（初演）・他

【出演】 松本 熙、松本 愛、東京金管五重奏団（在原 豊・平林 徹・海野貴裕・仲村淳）、門下生有志（Tb. 石澤俊明・劇団博之・及川義弘・邑原 希・座間 吉弘・巻島俊明・三宅伸哉・村田秀文・望月秀剛・山下秀樹・吉原正教 BTb. 会田芳之・篠崎卓美・玉那覇力・西田幹・比嘉一博、Tp. 山口れお）

クリスチャン・リンドバーグ トロンボーンリサイタル

2月11日 春日井市民会館 14:00

2月12日 福島テルサ 18:00

2月13日 武蔵野市民文化会館小ホール 14:00（無伴奏）

2月14日 トッパンホール 19:00
2月15日 福岡銀行本店ホール 19:00
2月16日 豊中市立アクア文化ホール 19:00

プログラム（各公演によって異なります）

作曲者不詳：三つの中世のダンス音楽

L. モーツアルト：アルト・トロンボーンのための協奏曲

C. リンドバーグ：無伴奏トロンボーンのためのジョー・ジャック・ビングルバンディット（2003）

チャイコフスキー：（編曲：C. リンドバーグ）：オペラ「スペードの女王」より組曲

ガーシュイン：（編曲：A. リンドバーグ）：三つの前奏曲

ドビュッシー：（編曲：A. リンドバーグ）：「子供の領分」より

フォーレ：舟歌第一番 イ短調 Op.26(ピアノソロ)

C. リンドバーグ編曲による愛奏曲集 等

ピアノ：白石光隆

問合せ：プロアルテムジケ

112-0013 東京都文京区音羽1-20-14-5F

TEL. 03-3943-6677, FAX. 03-3943-6659

pam@proarte.co.jp

ビッグバンドエクスプレス ライヴ

サムデイビッグバンドフェスティバルに出演

2月15日（火）19:30 サムデイ（新橋鳥森通り沿い）

ミュージックチャージ ¥3000

メンバーにビッグバンド界のベテランを配し親しみやすい曲の数々を演奏

林 文夫 鈴木孝二（Alto Sax）

川村裕司 唐木洋介（Ten. Sax）

大野 清（Bari. Sax）

佐久間勲 リック・ウォーグル 高橋一光 安孫子浩（Tp） 佐藤俊次 鍵和田道男 佐藤洋樹（Tb） 岩見淳三（Guit.）

阿野次男（Dr.） 岡村紘志（Bs） 高橋佳作（Pf）

お問合せ サムデイ 03-3506-1777

JR 新橋駅より7分 地下鉄千代田線霞ヶ関より5分 銀座線虎ノ門より5分 三田線内幸町より7分

武蔵野音楽大学 第25回トロンボーンアンサンブルのタベ

2月25日（金）18:30 川口リリア音楽ホール

入場料：999円

R・シュトラウス / ウィーン市祝典ファンファーレ

T・ペダーソン / ザ・ヴェルベットレザー

小長谷 宗一 / 委嘱作品

G・ホルスト / 組曲『惑星』より「火星～戦争をもたらす神～」他